

令和6年度事業報告

I 業務の実施概要

令和6年度における協会業務の実施概要は、次のとおりである。

1 公益事業

(1) 飼料増産の普及啓発

① 飼料増産に係る推進会議等の開催（飼料作物優良品種普及活用事業）

各地方農政局等との共催により、地域ブロック飼料増産会議を近畿2回及び九州の計3回実施するとともに、同会議研修会を東北（2回、参加者計94名）、関東（2回、同186名）、近畿（2回、同149名）及び九州（1回、同107名）において開催した。

② 飼料増産優良事例調査の実施

（飼料作物優良品種普及活用事業、全国自給飼料生産コンクール実施事業）

自給飼料生産の優良事例を広く紹介し、その振興を図るため、自給飼料生産の優れた取り組みを行っている事例について現地調査を実施し、学識経験者により経営内容を分析の上、放牧酪農経営、酪農生産法人及びコントラクターの3件について優良事例としてとりまとめた。

また、第11回全国自給飼料生産コンクールを実施し、広島県で耕畜連携による稲WCS生産を通じ地域の農地保全に貢献する有限会社トムミルクファームが農林水産大臣賞を受賞した。これらについては、ホームページに掲載し、広く紹介を行った。

なお、前年度の第10回全国自給飼料生産コンクールで農林水産大臣賞を受賞した広島県酪農業協同組合みわTMRセンターは、令和6年度農林水産祭畜産部門において日本農林漁業振興会会長賞を受賞した。

③ 技術情報の発信（飼料作物優良品種普及活用事業）

草地改良が有する温室効果ガス削減効果及び高位生産草地の維持のための植生管理技術等について、技術情報誌「グラス&シード」に取りまとめ、2,800部発行し関係機関等に配布した。

(2) 優良品種の普及等による単収や品質の向上

① 飼料作物の品種比較試験の実施（飼料自給率向上緊急対策事業）

地域に応じた飼料作物の優良品種の普及を図るため、北海道においては、北海道立総合研究機構、北海道農業研究センター、家畜改良センター十勝牧場において優良品種選定試験を実施し、オーチャードグラス 1 品種及びトウモロコシ 3 品種が新たに北海道優良品種に選定された。

また、都府県においては、青森県等 26 県 26 箇所及び家畜改良センター 1 箇所の計 27 箇所(注)において、トウモロコシ 23 品種、ソルガム・スーダングラス 10 品種、イタリアンライグラス 23 品種、フェストロリウム 3 品種、ペレニアルライグラス 2 品種、オーチャードグラス 4 品種、その他牧草等 4 草種 14 品種の品種比較試験を実施し、5 草種、のべ 14 品種が新たに優良品種（候補）に選定された。

注：青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、栃木県、茨城県、埼玉県、山梨県、長野県、新潟県、福井県、石川県、静岡県、三重県、和歌山県、山口県、香川県、徳島県、高知県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県、家畜改良センター岩手牧場

② 優良品種の栽培展示圃設置及び品種特性の情報提供

（飼料自給率向上緊急対策事業、飼料作物優良品種普及活用事業、
飼料用稲専用品種普及推進事業）

飼料作物の優良品種を生産現場で普及するため、飼料作物展示圃を 1 都 14 県（注）48 箇所に設置するとともに、令和 5 年度に設置した展示圃における展示品種の特性等をホームページへ掲載した。飼料用イネ専用品種パンフレット、牧草・飼料作物の秋播用品種及び都府県向け牧草品種のパンフレット計 65,000 部を作成し、関係機関に配布した。

また、日本農業新聞に、飼料作物の優良新品種を紹介する広告記事を 2 回（9 月 24 日及び 3 月 21 日）掲載した。

注：岩手県（5 箇所）、福島県（3 箇所）、茨城県、栃木県（3 箇所）、千葉県（5 箇所）、東京都、福井県、愛知県、島根県（2 箇所）、広島県（3 箇所）、佐賀県、長崎県（3 箇所）、熊本県（4 箇所）、宮崎県（4 箇所）、鹿児島県（11 箇所）

③ 地域の気象条件等に適した品種の実証栽培（飼料自給率向上緊急対策事業）

自給飼料生産を行う生産者集団を対象に、地域の気象条件等を勘案した最適品種を選定し、現地での技術指導等の取組みを行うため、農研機構東北農業研究センターと連携してイタリアンライグラス早生新品種「クワトロ-TK5」の現地実証

栽培を行い、栽培方法の普及指導を行うとともに実栽培での収量性や飼料分析結果などの関連情報の収集を行った。また、沖縄県畜産研究センターと連携し、夏季にソルガム、冬季にエンバク、イタリアンライグラスを供試し、地域の気象条件等に適合する品種の選定を行うとともに、畜ふん堆肥を活用した減化学肥料栽培について検証を行った。

④ 飼料生産利用技術向上の支援（飼料作物優良品種普及活用事業）

飼料作物優良品種の普及、栽培利用技術の向上等を図るため、青森県、岩手県、千葉県、熊本県、宮崎県における現地研修会のほか、オンライン方式にて優良品種の品種特性や栽培利用技術等に係る研修会を計 8 回（参加者数：計 615 名）開催した。

また、牧草・飼料作物生産への影響が懸念されている温暖化への対応等、持続可能な畜産物生産を推進する上での課題に関する全国飼料増産シンポジウムをオンライン方式で 2 月 4 日に開催した（参加申込者：487 名）。さらに、岐阜県下で開催された自給飼料講演会に、当協会の飼料作物研究所所長を講師として派遣した。

⑤ 草地診断の推進及び草地改良技術の普及による草地生産性の向上

（飼料自給率向上緊急対策事業）

全国 51 地区において草地の生産性向上を図るための事業を実施するとともに、事業の効果を全国に普及させる取り組みとして、草地診断・草地改良技術に関する研修会をオンライン方式で 11 月 1 日に開催した（参加申込者 283 名）。

また、令和 6 年度補正予算で措置された草地の生産性向上を図るための事業について、全国 49 地区で実施に向け準備を進めた。

⑥ 高温環境下でも安定多収を示すライグラス類の育成

（地球温暖化対応ライグラス類開発事業）

地球規模の気候変動に対応するため、高温環境下でも安定多収性を示す品種の育成・普及を行うこととし、前年度に引き続き、イタリアンライグラスにおける苗立枯病の発生状況の調査及び病原菌の収集、冷涼地向け高越夏性ライグラス類の育成、寒地向け高越夏性ライグラス類の育成等を実施した。

また、令和 5 年度に北海道優良品種に認定されたペレニアルライグラス「ほくところ」について品種登録出願申請を行い（令和 6 年 12 月 20 日出願公表）、3 月 11 日に宗谷地域農業新技術発表会において「ほくところ」の特性等を紹介する講演を行った（参加者 40 名）。

⑦ 飼料用稲の高タンパク質含量に関する DNA マーカーの開発

(高タンパク稲 DNA マーカー開発事業)

飼料用稲について、高タンパク質含量に関与する遺伝子の DNA マーカーを開発するとともに海外の稲遺伝資源由来の高タンパク形質を導入した品種を育成することとし、当協会の飼料作物研究所及び九州試験地の試験圃場において、国内で育成された極短穂茎葉型品種と海外から導入した系統との交配後代等を栽培し、粗タンパク質含量等を調べるとともに、高タンパク質含量及び極短穂茎葉型に係るマーカー解析を行った。

⑧ リビングマルチを活用した飼料用大豆の栽培・利用の推進

(飼料用大豆・高栄養 TMR 生産調製実証事業)

TMR 調製に不可欠で多くを輸入に依存するアルファルファ乾草や大豆粕等の価格が高騰するなか、国内においてタンパク質原料を確保するため、国産の飼料用大豆について、イネ科牧草のリビングマルチによる雑草対策技術を活用して栽培・利用する体系の調査を秋田県、岩手県、栃木県、京都府、熊本県(2箇所)の試験場計6箇所で行うとともに、北海道(3箇所)、秋田県、宮城県、新潟県、千葉県(2箇所)、熊本県及び宮崎県の実証地計10箇所において実証調査を行った。

また、これらの結果を踏まえた現地研修会を北海道(参加者71名)及び熊本県(同42名)で開催したほか、3年間の成果を取りまとめたパンフレットを5,000部作成し、普及関係機関等に配布した。

⑨ 飼料作物種子実態調査等の実施

(飼料作物優良品種普及活用事業、飼料自給率向上緊急対策事業)

欧州(スウェーデン、デンマーク、独、仏)における寒地型イネ科牧草種及びマメ科牧草の国内育成品種種子採種地帯での栽培管理等について専門委員とともに現地調査を行うとともに、種子の安定生産を確保するため、現地の気象変動等に対応した採種方法について、現地法人からの情報収集を行った。

また、国内における飼料作物種子の流通実態について都道府県の協力を得て調査を行った。

⑩ 飼料用稲専用品種の普及(飼料用稲専用品種普及推進事業)

地域の条件に応じた飼料用稲専用品種の普及及び栽培利用技術の改善を図るため、専用品種の実証圃を6県9箇所(注)に設置するとともに、4箇所で品種や施肥条件等の違いが収量や生産コストに及ぼす影響についての要因分析を行った。

また、飼料用稲専用品種の栽培利用技術の改善等のため、福島県、新潟県、岡山県、山口県、熊本県、鹿児島県にて地域研修会を計6回(参加者数:計358名)

開催するとともに、飼料稲アドバイザーによる現地指導を計 10 回実施したほか、専用品種「つきはやか」、「つきあやか」、「つきすずか」及び「つきことか」等の品種特性や生産・利用技術に係る基本情報の電子記事を民間配信サイトに掲載し、併せて本会ホームページで紹介するとともに Facebook でブースト広告を提供した。

さらには、11 月 3 日に熊本県で開催された第 8 回九州連合ホルスタイン共進会にブースを出展し、飼料用稲専用品種の植物見本や特性を示したパネルを展示するとともに給与や栽培利用法についての紹介を行った。

注：福島県（2 箇所）、茨城県、長崎県（2 箇所）、熊本県、宮崎県、鹿児島県（2 箇所）

⑪ 国産粗飼料品質基準の策定（飼料自給率向上緊急対策事業）

北海道等の協力を得て、コントラクター等を対象とした粗飼料の流通に関する実態調査及び畜産農家を対象とした国産粗飼料の購入利用に関する実態調査を実施の上、学識経験者等による委員会での検討を踏まえ「国産粗飼料品質等情報記録・表示のガイドライン（初版）」を策定した。

⑫ シバ型牧草の育成（放牧に適した踏圧に強いシバ型牧草開発事業）

収量性、緑度維持、採種性、踏圧耐性等に優れたシバ型牧草の優良系統を育成するため、本協会の飼料作物研究所及び九州試験地に試験圃場を設置し調査・選抜を行った。

また、育種素材として、全国 8 県（岩手県、新潟県、島根県、香川県、高知県、熊本県、宮崎県、沖縄県）からノシバ及びセンチピードグラス等の遺伝資源を収集した。

（３）放牧の推進

① 放牧指導者等育成のための研修会の開催

（放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業）

全国に放牧畜産を普及するため、普及関係機関や農業団体など現場支援指導にかかわる関係者や新たに放牧を始めようと考えている生産者等を対象に、放牧によるコスト低減・省力化の効果、放牧導入に当たって留意すべき点などの基礎的な知識を提供する研修会をオンライン方式で 12 月 12 日に開催した（参加申込者：329 名）。

② 放牧等持続的畜産の技術向上（放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業）

放牧技術の向上を図るため、現地からの要請に応じて、放牧アドバイザーによ

る現地指導を全国 23 件（青森県、岩手県、宮城県、福島県、栃木県、群馬県、東京都、長野県、静岡県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、宮崎県）で実施した。

また、当協会ホームページに、新たに放牧を始めようとしている生産者等に向けた放牧技術に関するサイトを作成した。

③ 放牧等持続的畜産の普及啓発（放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業）

放牧畜産基準認証制度に基づく現地確認及び審査等を実施し、放牧畜産実践牧場 51 件（新規 15 件、継続 36 件）、放牧酪農牛乳 1 件（継続 1 件）及び放牧酪農乳製品 4 件（新規 1 件、継続 3 件）を認証した。

また、放牧畜産物を生産している放牧畜産実践牧場等 5 箇所（佐藤牧場、丸藤牧場、譜久村牧場、菊池牧場、大野畜産公社模範牧場）について、紹介ビデオを作成し、当協会のホームページ「放牧畜産って何？」で紹介した。

（４）コントラクター等による国産粗飼料の生産・流通円滑化

① コントラクター等の規模拡大への支援

（飼料生産組織による安定的な国産飼料の供給支援事業）

コントラクター等が行う飼料の生産・販売、作業受託、稲わらの収集作業の規模拡大を支援するため、4 月 25 日に事業参加希望者を含む関係者、5 月 31 日に市町村等行政機関を対象として事業実施手順や留意事項等に関する説明会をそれぞれ開催し、全国 57 のコントラクター等を対象に事業を実施した。

また、令和 6 年度補正予算で措置された国産飼料生産・利用拡大緊急対策事業の実施に向けて準備を進めた。

② TMR の品質改善に向けた取り組み（高品質 TMR 供給支援対策事業）

高品質な TMR の安定供給を図るため、バンカーサイロの補改修に取り組む TMR センターに対する支援を 1 件実施した。

（５）消費者に対する草地畜産への理解醸成

① 放牧畜産物の普及浸透促進（放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業）

8 月 8 日～9 日に新千歳空港ターミナルビルで、10 月 9 日～11 日に幕張メッセにおいて開催された農業 Week（J-AGRI）で、1 月 25 日～26 日に都内（新宿区神楽坂）のイベント施設で、それぞれ放牧酪農乳製品フェアを開催し、チーズ生産者にも参加してもらって、放牧酪農乳製品の展示販売を行うなど、消費者に直接、放牧畜産物の魅力を PR した。

さらに、消費者に広く放牧畜産物の普及・啓発と理解醸成を図るため、10 月 16 日～17 日に北海道幕別町内で消費者との意見交換会を開催したほか、一般財団法

人消費科学センターの「消費の道しるべ」に放牧畜産について解説した記事を掲載するとともに、当協会ホームページに、消費者に放牧畜産の魅力を伝えるサイトを作成した。

2 収益事業

(1) 飼料作物種子の増殖

① 飼料作物優良品種の海外契約採種（海外契約採種安定化対策事業）

イタリアンライグラス、チモシー、オーチャードグラス等 10 草種 27 品種、合計 817 t をアメリカ、フランス、デンマーク、ニュージーランド等において増殖するとともに、13 草種 42 品種、合計 493 t を販売した。

令和 6 年度海外契約採種安定化対策事業実績

(数量：t)

種 類	令和 6 年度 供給等					令和 6 年度 売渡			次期繰越
	繰越	生産			供給可能 量計				
		草種	品種	数量		草種	品種	数量	
イタリアンライグラス	204	1	6	273	477	1	10	119	358
多年生牧草	289	7	16	387	672	10	26	340	332
青刈飼料作物	63	2	5	157	215	2	6	34	181
計	556	10	27	817	1,364	13	42	493	871

注 1) 主要草種・品種の内訳は、別紙 1 の通り。

注 2) 供給可能量の値は、処分による数量減を反映したものである。

② 協会育成品種の増殖販売（海外契約採種安定化対策事業）

当協会が育成したイタリアンライグラス「はやまき 18」、「JFIR-20」及びペレニアルライグラス「道東 1 号」の種子の販売を行ったほか、シバの新品種「善緑」はソッド（切り芝）の販売を行った。

また、シバ「たねぞう」及びペレニアルライグラス「ほくとう」の原種子増殖を家畜改良センター茨城牧場長野支場で実施している。

③ 飼料用稲種子の増殖配布（飼料用稲種子増殖配布事業）

令和 7 年播種用として 16 品種 333 t（栽培用 329t、原種 4 品種 3.5t）の種子を増殖し、16 品種 338 t を配布した。

また、生産者への配布を早期に実施するため、種子の配送方法を産地直送方式に変更した。

飼料用稲種子増殖・配布実績

(単位 : ha、kg)

品種名	令和 6 年度増殖・配布				次期繰越
	前期繰越	面積	増殖量	配布量	
つきはやか	273	6.00 (0.50)	12,060 (1,500)	12,173 (380)	160 (1,120)
つきあやか	95 (460)	5.00	8,100	8,095 (320)	100 (140)
たちあやか	419 (1,200)	9.50	14,620	15,020 (460)	19 (740)
つきすずか	3 (3,700)	12.50	45,080	44,983 (2,100)	100 (1,600)
たちすずか	883 (740)	11.50	39,960	40,839 (740)	4
つきことか	498	3.00	8,440	8,863	75
リーフスター	65 (1,040)	3.50	11,680	11,720 (522)	25 (518)
タチアオバ	80 (580)	4.50	18,960	19,040 (420)	(160)
夢あおば	4,930 (1,940)	19.50	86,320	91,150 (1,140)	100 (800)
べこあおば	2,019	3.00 (0.20)	13,100	13,520	1,599
モミロマン	21 (500)	1.00	5,160	5,160 (60)	21 (440)
クサホナミ	20	0.80 (0.20)	(358)	20 (58)	(300)
モグモグ あおば	59 (760)	5.00	23,860	23,839 (220)	80 (540)
みなちから	(720)	4.50	16,760	16,740 (440)	20 (280)
北陸 193 号		(0.20)	(1,680)	(40)	(1,640)
ミズホチカラ	80 (660)	3.50	25,300	19,920 (280)	5,460 (380)
たちはやて	11				11
計	9,456 (12,300)	92.80 (1.10)	329,400 (3,538)	331,082 (7,180)	7,774 (8,658)

注 1) 表中 () 内は原種で外数である。

2) 次期繰越の数値は処分による数量減を反映したものである。

④ 飼料作物種子の安定的供給（飼料作物種子安定供給対策事業）

公的機関で育成された飼料作物等優良品種種子の安定的な供給及び自然災害等不測の事態に備えるため、種子の備蓄に必要な計画を策定するとともに、全国 11 箇所の倉庫に 14 草種 58 品種の種子を保管し、計画的な備蓄及び安定的な供給を行った。

（２）飼料作物種子の検査等

① 飼料作物の種子検査・証明（飼料作物種子証明事業）

17 草種 3,049 t の種子を検査し、証明書を発行した。

令和 6 年度種子検査実績

項 目	令和 6 年度	令和 5 年度
流通種子検査（kg）	3,049,340 (1,642,704)	2,994,057 (1,498,733)
根粒菌接種確認（kg）	85,519	57,134
圃場検査（a）	0	0
生産種子検査（kg）	0	0

注 1）流通種子検査の（ ）内は海外増殖種子輸入分で内数である。

注 2）流通種子検査数量の草種ごとの内訳は、別紙 2 の通り。

② ライグラス類等の倍数性の検査（ライグラス等倍数性検査事業）

イタリアンライグラス 8 ロットの倍数性検査を実施し、申請者に検査結果の報告を行った。

③ とうもろこしすす紋病抵抗性遺伝子の検査

（とうもろこしすす紋病抵抗性遺伝子検査事業）

とうもろこしすす紋病抵抗性遺伝子の *Ht1*、*Ht2* について、協会が開発した遺伝子マーカーを用いて、会員等からの依頼により検査する体制を整えたが、検査の申請はなかった。

(3) 飼料作物種子品種表示の適正化

① 飼料作物種子品種名の登録（飼料作物品種名登録事業）

飼料作物種子の品種表示の適正化を図るため、飼料作物種子品種表示運用基準に基づき、品種名の新規登録（11 件）及び登録更新（16 件）を行った。これにより、令和 6 年度末時点で 33 草種、174 品種（登録数 204 件）を飼料作物品種名登録簿に登録した。

3 その他

(1) 全国コントラクター等経営高度化推進協議会からの業務受託

全国コントラクター等経営高度化推進協議会から、協議会運営の業務を受託し、令和 6 年 4 月 19 日、コントラクター等の抱える課題と対応等について、農林水産省畜産局飼料課担当官と協議会会員との意見交換会を実施するとともに、ホームページの管理運営、会員への施策に関する資料等情報提供活動を行った。

(2) 全国公共牧場協議会からの業務受託

全国公共牧場協議会から協議会運営の業務を受託し、令和 6 年 5 月 20 日、公共牧場の課題と対応について、農林水産省畜産局飼料課担当官と協議会会員との意見交換会を実施するとともに、会員への施策に関する資料等情報提供活動を行った。

(3) ふれあい牧場協議会からの業務受託

ふれあい牧場協議会から協議会運営の業務を受託し、令和 6 年 10 月 29～30 日、岩手県葛巻町内において協議会会員間での意見交換会を実施するとともに、参加者一同でくずまき高原牧場の現地調査を行った。

また、ふれあいグッズ・児童向け冊子の提供を行うとともに、今後の配布見込量を基に増刷を行った。

(4) 全国放牧畜産ネットワーク協議会からの業務受託

全国放牧畜産ネットワーク協議会から協議会運営の業務を受託し、令和 7 年 1 月 28 日に放牧の推進方策等について、農林水産省畜産局飼料課担当官と協議会会員との意見交換会を実施した。

また、会員への「放牧通信」の作成・配布（3 回）や会員への施策に関する資料等情報提供活動を行うとともに、地域での研修会の開催等会員の行う放牧推進活動への支援を行った。

(5) 各種団体等の会員としての活動

放牧の意義や放牧酪農乳製品の魅力の普及に資するため、チーズの正しい知識と取り扱い方法を浸透させ、チーズ文化の創造とチーズ業界の発展に寄与している

NPO 法人チーズプロフェッショナル協会の賛助会員となった。

(6) 意見・要望の提出

新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」及び「食料・農業・農村基本計画」の策定に向けた検討に際して、令和6年10月、令和7年2月に農林水産省へ当協会及び各協議会から意見・要望を提出した。

(7) 出版事業

次の出版物の販売に努めた。

○草地開発整備事業計画設計基準

○草地管理指標

- －草地の維持管理編・本冊
- －草地の維持管理編・別冊
- －草地の土壌管理及び施肥編
- －草地の放牧利用編・放牧牛の管理編
- －草地の多面的機能編
- －飼料作物生産利用技術編
- －草地の管理作業及び採草利用編

○粗飼料の品質評価ガイドブック

○牧草・飼料作物の品種解説

Ⅱ 協会運営

1 理事会・総会の開催

次の会議を開催し、協会業務の円滑な運営を図った。

会 議 名	開 催 年 月 日	場 所
定時総会	令和 6 年 6 月 25 日	K K R ホテル東京
理事会 第 1 回 第 2 回 第 3 回	令和 6 年 5 月 30 日 令和 6 年 6 月 25 日 令和 7 年 3 月 25 日	当協会会議室 K K R ホテル東京 当協会会議室

2 会員数

令和 6 年度末における会員数は、次のとおりである。

(会員数の内訳)		(会員異動状況)	
会 員 区 分	会 員 数	令和 5 年度末会員数	1 0 8
出資会員	5 4	令和 6 年度脱会	3
会費会員	4 0	令和 6 年度入会	0
賛助会員	1 1	令和 6 年度末会員数	1 0 5
計	1 0 5		

(注) 脱会会員は愛知県酪農農業協同組合（出資会員及び会費会員に重複して加入）及び佐賀県草地飼料協会（会費会員）である。

3 人事

(1) 役員

① 令和6年6月25日の定時総会において、次のとおり役員の選任が行われた。

区分	氏 名	所 属
会 長	布野 秀隆	一般社団法人岡山県畜産協会代表理事会長 雪印種苗株式会社代表取締役社長
副会長	柴田 範彦	
副会長	笠松 宏一	
専務理事	田中 誠也	
常務理事	元村 聡	
理 事	岡田 征雄	一般社団法人全国酪農協会常務理事
理 事	小谷 英穂	全国酪農業協同組合連合会常務理事
理 事	栗本まさ子	公益社団法人日本乳業技術協会顧問
理 事	児島 隆政	タキイ種苗株式会社営業部緑化飼料課長
理 事	近藤 康二	公益社団法人中央畜産会専務理事
理 事	齋藤 智紀	カネコ種苗株式会社緑飼部長
理 事	下地 常夫	公益財団法人沖縄県畜産振興公社理事長
理 事	富田 育稔	一般社団法人家畜改良事業団理事長
理 事	中野 晋	一般社団法人青森県畜産協会専務理事
理 事	中村 大	全国農業協同組合連合会単味・粗飼料課長
理 事	西野 一	ホクレン農業協同組合連合会酪農畜産事業本部長参事
理 事	蒔平 昌則	公益社団法人鹿児島県畜産協会代表理事専務
理 事	森 敦	一般社団法人岐阜県畜産協会専務理事
理 事	安武 秀貴	熊本県農林水産部畜産課長
監 事	大澤 浩司	千葉県農林水産部畜産課長
監 事	菊池 淳志	一般社団法人中央酪農会議専務理事
監 事	齋藤 実	公益社団法人栃木県畜産協会専務理事

② 次の役員の辞任があった。

人事異動に伴う辞任 7月21日付（理事）	全国酪農業協同組合連合会常務理事 小谷 英穂
-------------------------	------------------------

（２）職 員

令和６年度末における職員数は、次のとおりである。

所 属	職 員 数	備 考
本 所	１８	役員の兼務２名を含む 契約研究員を含む
北海道支所	１０	
飼料作物研究所	６	
九州試験地	３	
計	３７名	

Ⅲ 付属明細書

特記する事項はありません。

(別紙 1)

令和6年度海外契約採種安定化対策事業実績の主要草種・品種の内訳

(数量:t)

草種、品種名	令和5年度 からの繰越量	令和6年度 輸入量	供給合計量 (繰越量 + 輸入量)	令和6年度 売渡量	翌年度への 繰越量
イタリアンライグラス					
ワセユタカ	118.6	149.8	268.4	60.0	208.4
きららワセ	9.8	0.0	9.8	8.0	1.8
ニオウダチ	25.1	52.3	77.4	18.0	59.4
その他	50.4	71.2	121.6	33.5	88.1
オーチャートグラス					
アキミドリⅡ	8.0	2.4	10.4	3.0	7.4
ハルジマン	12.0	0.0	12.0	12.0	0.0
トヨミドリ	7.5	0.0	7.5	7.5	0.0
まきばたろう	5.4	8.0	13.4	6.5	6.9
チモン					
キリタツプ	59.2	28.5	87.7	70.4	17.3
なつぴりか	26.8	144.0	170.8	91.4	79.4
なつさかり	0.0	44.4	44.4	41.0	3.4
ペレニアルライグラス					
ポコロ	19.0	0.0	19.0	5.0	14.0
夏ごしペレ	3.0	18.0	21.0	5.0	16.0
オウフェスク					
まきばさかえ	1.8	6.0	7.8	1.8	6.0
アカローバ					
リョクユウ	0.0	3.9	3.9	3.0	0.9
ギニアグラス					
ナツカゼ	7.0	0.0	※ 6.9	2.5	4.4
その他の多年生牧草	139.7	132.7	※ 267.9	90.7	177.2
青刈リエンバク					
はえいぶき	37.6	57.9	95.5	15.0	80.5
たちいぶき	5.5	42.0	47.5	6.0	41.5
青刈リトウモロコシ					
タカネスター	0.3	0.0	0.3	0.3	0.0
その他の青刈り類	19.2	57.2	※ 71.2	12.6	58.6
合 計	555.9		※ 1,364.4		871.2

注)※は、品質劣化による処分等により、数量の減がある。

(別紙 2)

令和6年度流通種子検査実績の主要草種ごとの内訳

区分	草種	検査数量(kg)	
		流通種子	根粒菌接種
イネ科	チモシー	995,090	－
	オーチャードグラス	185,714	－
	イタリアンライグラス	657,354	－
	ペレニアルライグラス	147,507	－
	その他	104,260	－
	小計	2,089,925	－
マメ科	アカクローバ	66,951	16,043
	シロクローバ	55,608	31,555
	アルファルファ	61,221	37,921
	その他	1,133	0
	小計	184,913	85,519
青刈り類	トウモロコシ	42,367	－
	ソルガム	5,560	－
	えん麦	246,570	－
	飼料用稲	480,006	－
	小計	774,503	－
合計		3,049,340	85,519